

DATA FILE



六方晶系

名前	HELIODOR (ヘリオドール) / ヘリオドール
化学組成	$\text{Be}_3\text{Al}_2\text{Si}_6\text{O}_{18}$
色	黄色、黄緑色、茶色など
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	不明瞭
断面	貝殻状
硬度	7.5 ~ 8
比重	2.6 ~ 2.8

ヘリオドール

HELIODOR

含まれる第二鉄の影響で黄緑色や茶色を帯びるが、美しい黄色の結晶はまれにしか産出しない。

ウクライナで産したヘリオドールの結晶。

「ヘリオドール」とは、ギリシャ語で「太陽の贈りもの」という意味。

結晶は六角柱状で、ガラスのような光沢を持ち、ハンマーなどでたたくと貝殻状の断口を示す。

通常は蛍光を示さない鉱物だが、放射性物質を含んでいる場合は、紫外線で蛍光を示すことがある。

緑柱石グループのなかまで、緑柱石はエメラルド（緑色）やアクアマリン（青緑色）など、色によって名称が区別されている。



黄色の緑柱石

色によって名称が異なる緑柱石グループのなかで、黄色みのあるものが「ヘリオドール」と呼ばれる。結晶中に含まれる第二鉄のわずかな差により、黄色、黄緑色、茶色など幅広い色調であられるが、美しい黄色の結晶が産出することは珍しい。そのため、装飾品として、輝きが強くなるよう人工的に加熱処理が施されたり、人工着色したガラスと合成スピネル（尖晶石）を黄色い接着剤で貼り合わせたイミテーションがつくられることが多い。

主にペグマタイト鉱床中に生成するヘリオドールは、同じ緑柱石グループのアクアマリンとともに発見されるほか、浸食作用によって川に流されて別の場所の堆積物から見つかることもあり、ブラジルのミナス・ジェライスやロシアのウラル地方などが産地として有名だ。



▲黄緑色がかったヘリオドールの結晶。イタリア産。

▼茶色がかったヘリオドールの結晶。ロシア産。



高価な宝石

「ヘリオドール」は、ギリシャ語の「helios（太陽）」と「doron（贈りもの）」から名付けられ、古代ローマの博物学者ガイウス・プリニウス・セクンドゥス（23～79年）が執筆した『博物誌』のなかにも登場している。高価な黄色い宝石として知られていたヘリオドールであったが、当時は、色合いの似ている金緑石と混同されることも多かったようだ。

主な産地



ロシア



ウラル地方で質の良いものが産する。

▶卵形にカットिंगが施されたヘリオドール。マダガスカル産。



アメリカ



コネチカット州などで産出する。

スリランカ



ブラジル



ミナス・ジェリスが有名な産地。

ナミビア



▶ブラジルで産出したヘリオドールの柱状結晶。このように平行な結晶が並んだものを「平行連晶」という。

